

# 嶋満神社便り

平成二十五年四月号(第5号)

発行 嶋満神社奉賛会

## 当社の狛犬さんのお話

「この狛犬さんはどうして子どもを抱いているの？」

きっかけは子どもの発した、素朴な質問でした。新舞鶴校の四年生の地域学習で講師さんを勤められた、当奉賛会の亀井さんに投げかけられたものです。

なるほど、鳥居に向かって右側の狛犬さん(阿形像と言います。反対側は吽形像。)は足元に子どもを抱え、更にその子どもは玉を抱えています。皆さんも一度参道下の石像をよくご覧になってください。

さて、「狛犬」をネットで調べてみると実に多くの情報や「うんちく」があふれていますが、整理してみるとおおむね次のようです。

・まず、子どもを抱えたものは「子取り」、玉を抱えたものは「玉取り」と言い、決して珍しくはない。  
・「子取り」は子孫繁栄、子どもの健やかな成長を願うもの、「玉取り」は吉祥の象徴としての玉をデザインしたものである。また「魂」の象徴とも。



・狛犬の起源はライオンであるが、中国では獅子となり、日本へ伝わったときには「見たこともない犬」・・・「高麗(こうらい)の犬」・・・「高麗(こま)の犬」・・・「狛犬」と呼ばれるようになった。

・中国から伝わったものであるので、デザイン的に

は当然、台座の文様も含めてかの国の「吉祥模様」の影響を受けている。・・・などなど。

さて皆さん、ここで質問です。ジャジャン♪

当社の狛犬さんはそれぞれどちらを向いているのでしょうか？ お互いに対面している？ 平行してどちらを向いている？ それとも・・・？

このような質問をすること自体、全国各地の狛犬には実に様々な形があるということなのです。もちろん阿吽一对のものばかりでもありません。

小寺慶昭氏の「京都狛犬巡り」によれば、「阿形が玉取りで吽形が子取り」のパターンが京都府では南部に多く、「阿形の子取り」のみで「吽形は子も玉もなし」という形は北部地域にしかなく、当社の「子獅子が玉を持つ(：基本的には子取り)」形式は舞鶴では与保呂のお宮さんにもあり(但しこちらは左側の吽形が抱える)当地から丹後地方にかけてのみ見られる形式だとか。



与保呂の狛犬さん

さて先の答え、当社の狛犬さんは阿吽が互いに向き合う「阿吽対面型」ですが、舞鶴だけに限れば実は「吽阿平行型」と言って阿形像と吽形像が当社とは左右が逆で、しかも参道に平行しているものが際立って多く、京都府の中でも「舞鶴狛犬文化圏」を形成すると小寺氏は述べています。この型は小浜市などにも多く見られ、中国の影響を受けた古いスタイルを良く残しているということのようです。

さてそこで問題になるのは、当社が昭和十四年に泉源寺へ疎開、遷宮する以前の設置の位置と向きはどうであったかということです。そして昭和三十六年の浮島復帰時にそれが変わったのかどうか・・・。

阿形、吽形ともに真っ直ぐ前を向く形なので、仮に現在の対面型を並行型に置き換えたとしても、また左右逆にしたとしても違和感はないのですが・・・。

謎が謎を呼び、盛り上がった所で話は次号へと続きます。それまでに皆様も是非一度お参りの上、狛犬さんをどうぞお確かめくださいませ。